

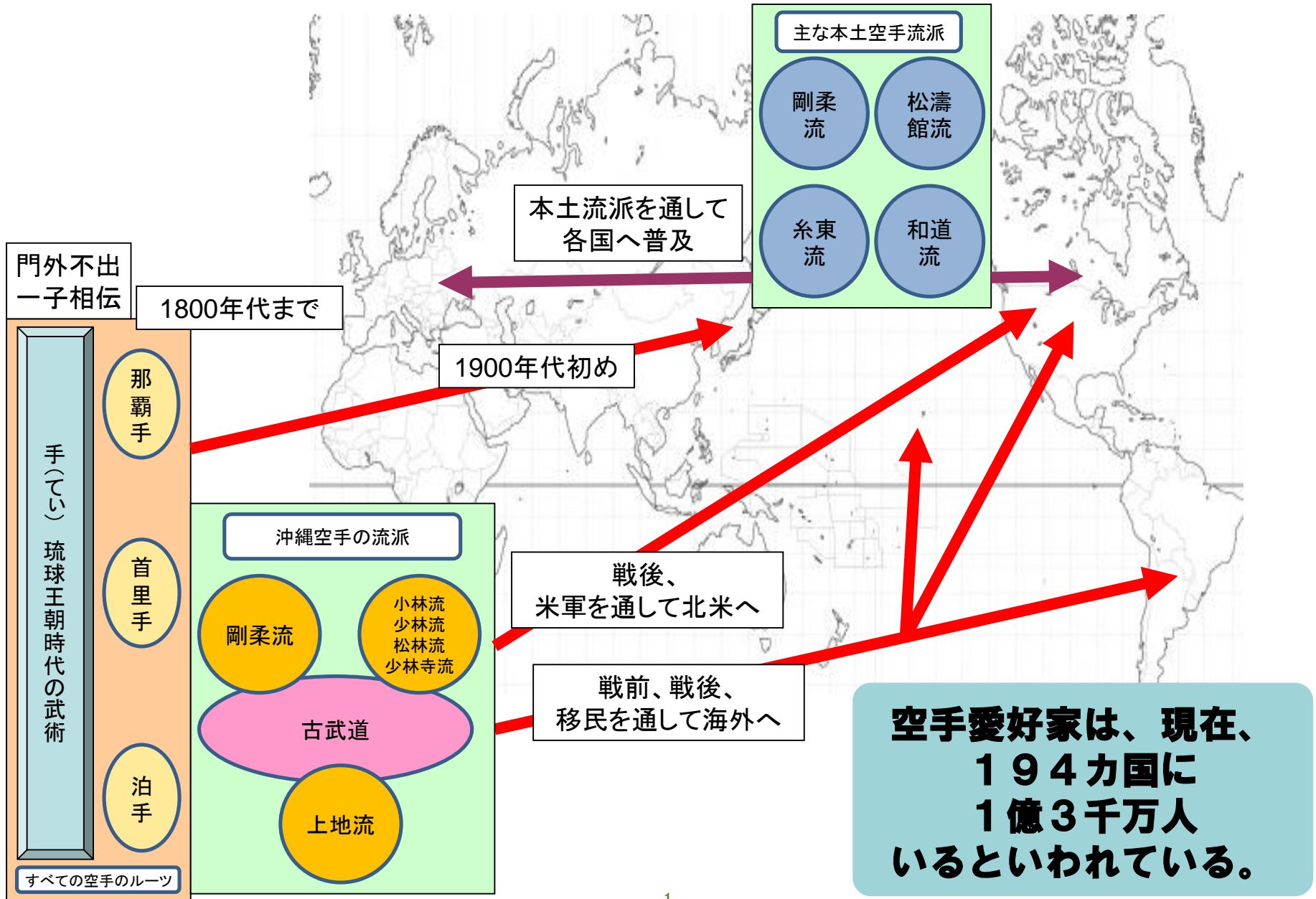
沖縄県武道ツーリズムについて



平成31年1月

沖縄県文化観光スポーツ部

沖縄空手 伝播のイメージ





【目的】

沖縄空手会館は、沖縄伝統空手・古武道を独自の文化遺産として保存・継承・発展させ、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として整備した施設

【施設概要】

- 所在地 : 沖縄県 豊見城市字豊見城854番地1 (豊見城城址公園跡地内)
- 敷地面積 : 約3.8ヘクタール
- 主要用途 : 空手道場 (4面) および展示施設
- 延床面積 : 約7,810㎡

道場施設	5,917㎡
展示施設	1,803㎡
特別道場	91㎡

【沖縄空手案内センター】

- 目的 : 沖縄空手に関する情報を県内外、国外に発信するとともに、県内外、国外からの問い合わせに対応する
- 運営委託先 : 沖縄伝統空手道振興会

【資料室】

- 目的 : 空手関係の文献・資料、伝統的な鍛錬具や武具を展示し、空手の発祥や歴史を学べる施設



【整備目的】

○沖縄空手の源流や今日に伝わる流派の特徴
空手の先人達について当時の時代背景を織り
交ぜ解説するとともに、独特の鍛錬具や棒、
サイなどの武具を展示し、空手の発祥や歴史
を学べる施設

○足腰を鍛える鉄下駄や握力を鍛えるカーミ
などの体験コーナーも備えている

【多言語化の推進】

○展示資料室には、世界各国から
空手家が訪れるため、多言語化
(英語・仏語・西語・独語・露
語・中国語・伊語・葡語)を推進
しており、2019年は韓国語を予定。

○今後の課題として空手
に精通した通訳案内士の
育成があげられる。

これから何をすべきか

これまで

県

空手指導者海外派遣
国際セミナー
集中稽古
空手の日記念演武祭
など

必要時に連携

空手関係者

県内、国内、海外への
空手普及・発展

必要時に連携

経済界

空手関連商品開発等

沖縄空手の保存・継承・発展に 戦略的に取り組む

共通認識
の共有

沖縄空手振興
ビジョン策定
(平成30年3月)

沖縄空手振興
ビジョン
ロードマップ
の策定
(平成31年3月予定)

関係者一体
となった
沖縄空手の振興

@技、精神性の
保存・継承
@国内外への普及
@交流人口の拡大

将来像

【保存・継承】

空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求し礼節を重んじる精神性が正しく次世代へ受け継がれている。

【普及・啓発】

空手を取り巻く環境変化を的確に捉えた施策の推進により世界中の空手家が「空手発祥の地・沖縄」を認識している。

【振興・発展】

空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立されて空手による産業振興が図られている。

主要施策

技及び精神性の継承

沖縄空手関係団体・流派・道場間の連携

公認段位制度

ユネスコ無形文化遺産への登録等

学術研究・体制

空手発祥の地・沖縄

武道教育と空手の活用

競技と伝統

競技力の強化

振興・発展の全体戦略

人づくり

情報通信の活用

産業振興

施策項目

- ・効果的な道場の運営や広報による門下生の増加
- ・型の技術体系書とDVDを揃えた教材の整備
- ・指導体系書の策定と指導体制の確立
- ・沖縄伝統空手道振興会版の継承プログラムの策定
- ・国内外の空手愛好家に型の運用法に加え道徳的な指導を行う

- ・沖縄伝統空手道振興会の組織運営基盤の強化
- ・来訪する空手愛好家へ空手の技及び精神性を的確に伝えるため流派連絡会を設置し技術講習会や情報交換会を実施
- ・道場の運営基盤の安定強化（運営資金の確保）

- ・沖縄空手の技量等を確認するための客観的指標となる新たな段位制度を検討

- ・県指定無形文化財保持者の適切な追加認定
- ・ユネスコ無形文化遺産への登録に向けた気運の醸成を図る

- ・高等教育機関と連携した研究活動
- ・国内外への「空手発祥の地・沖縄」の発信
- ・世界各国への沖縄空手支部設立による連携強化
- ・沖縄空手大使の設置による各国への普及活動
- ・ギネス記録更新に向けた「空手の日」と「ウチナンチュ大会」との連携
- ・国内外での沖縄空手の披露と県内セミナーの実施
- ・国内外のイベント会場における演武披

- ・教育関係機関との連携による学校での集団演武
- ・新たな幼児向けの型の創作
- ・子ども向けのキャラクターや絵本の制作
- ・来訪する海外空手家と子ども達との交流の場の創出
- ・新たな魅力の発信（女性向け空手エクササイズ等）

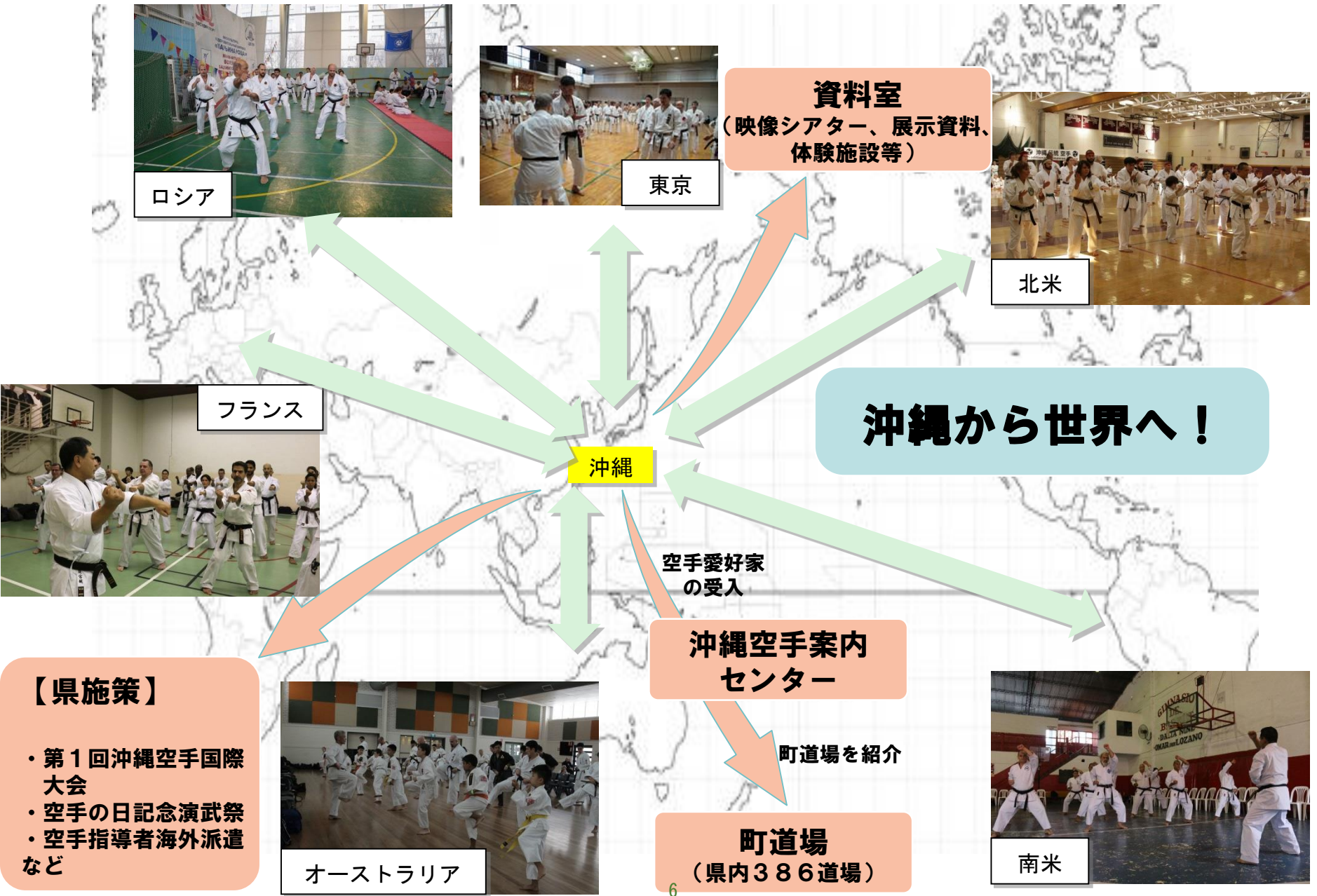
- ・世界で実施されている空手大会等の県内誘致
- ・沖縄空手国際大会の定期開催に向けた仕組の構築
- ・沖縄空手案内センターの機能強化

- ・オリンピック等をめざす空手家への支援策の検討

- ・「空手の聖地・沖縄」の確立
- ・空手のコンテンツ制作
- ・強力な事務局体制の構築
- ・産官学連携による空手を活用した人づくりの体系化
- ・エンターテインメント作品の制作による人材育成
- ・空手に関するアプリケーションの開発
- ・空手を軸としたマーケティング戦略の構築
- ・空手の魅力を伝える演武会等の開催
- ・社会経済状況等の変化を見据えながら施策推進
- ・来訪する外国人に向けた空手の普及活動の推進
- ・（沖縄空手情報にアクセスできるシステム構築）（空手関連商品の開発）（昇級昇段試験の管理）

- ・**空手を組み込んだ旅行商品の開発**
- ・長期滞在型宿泊施設の整備
- ・平和と伝統文化を学び体験できる観光地としての拠点形成
- ・ライセンスによる権利保護と活用
- ・空手経済圏の構築と多様な金融支援策の検討
- ・フランチャイズ方式による道場運営の検討

沖縄空手の世界への発信



世界50の国と地域から
1,109人（県内除く）



各国の休暇状況を考慮し8月開催としたが、台風リスクや沖縄観光ハイシーズンによる旅行費の高騰が課題



空手家の旅行の特徴
滞在日数が長い！
平均日数⇒9日
最長⇒90日

会場容量の制約から沖縄空手会館、県立武道館の2会場で開催⇒参加規模を拡大するためには大規模会場の整備が必要！

沖縄

世界から沖縄へ！



世界中の空手家が沖縄に集結する仕組みを構築するため、沖縄空手国際大会は4年毎の定期開催を予定⇒そのためにも大会内容のブラッシュアップが必要！

世界の空手家が県内を循環する仕組みの構築

国内外から
来訪する空手家



拠点施設：沖縄空手会館



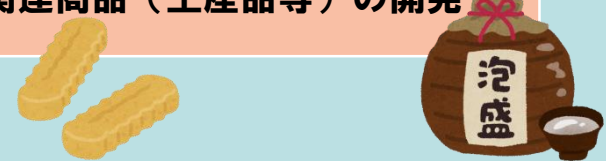
- ・道場施設
- ・沖縄空手案内センター
- ・展示資料室

○県内には386の道場がある。
沖縄県全体を一つのテーマパークとした場合、
各道場は独立したアトラクション施設と捉える
事ができる。
○また県内には各流派に関する顕彰碑が
各地にある。
⇒これらを巡る交通手段や近隣の宿泊施設等
を完備したマップを作成し、自分の流派の
ルーツを求める空手家が県内をくまなく循環
する仕組みを構築する。



【関連産業】

- ・道場や顕彰碑を組み合わせた旅行商品の造成
- ・沖縄空手のロゴを用いた空手関連商品（土産品等）の開発



事前キャンプ誘致を実現するために

- 市町村や県内競技団体と連携した誘致活動のための組織作り
「沖縄2020事前キャンプ等誘致推進委員会」の設置(2016.8月)

構成：沖縄県、誘致希望20市町村、沖縄県体育協会
会長：県知事 副会長：那覇市長、県体協副会長

【具体的取り組み】

- ①各団体関係者の人脈によるアプローチの実施
- ②在京の関係国大使館等への訪問・説明の実施
- ③国際大会等での関係者等へのアプローチ
- ④事前交渉の進捗により必要に応じ、直接国外の競技団体への誘致活動
- ⑤キーパーソン招聘 . . . 県内環境の視察・確認
- ⑥団体合宿実証 . . . 実証を通じた課題の抽出・改善

沖縄県における東京2020大会に向けた事前キャンプ誘致の取り組み（空手）

○海外誘致活動

- ニュージーランド空手連盟（2016年12月）
- ブラジル空手連盟、アルゼンチン空手連盟（2017年7月）

○キーパーソン招聘による県内視察

- ニュージーランド空手連盟会長（2017年3月）
- ハンガリー空手連盟ナショナルチームコーチ（2017年3月）

○協定の締結

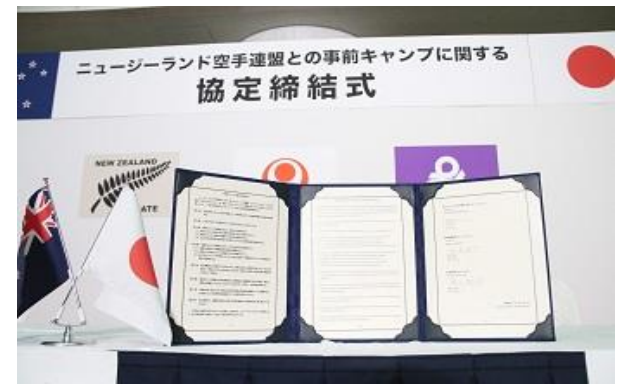
- 2017年3月（ニュージーランド空手連盟、沖縄県、沖縄市）



県・市、連盟による協定の締結



代表選手による演武披露



協定書

- 2018年7月（ハンガリー空手連盟、沖縄県、豊見城市）

ご清聴ありがとうございました。